

2019情報通信月間参加行事 報告書

行事ID	C027	行事名	周波数資源開発シンポジウム2019
行事形式	講演会	主催団体	国立研究開発法人情報通信研究機構 一般社団法人電波産業会
開催日	2019年7月5日		開催場所 明治記念館
行事参加者数	250		Webサイト URL https://www.arib.or.jp/image/osirase/news/1173.pdf
行事实施概要・アピール等			
<p>「周波数利用の可能性を拡げる次世代ワイヤレス技術」をテーマにした「周波数資源開発シンポジウム2019」が、一般社団法人電波産業会及び国立研究開発法人情報通信研究機構主催、総務省後援により、明治記念館 蓬莱の間(港区元赤坂)において開催されました。</p> <p>第5世代移動通信システム(5G)の登場を契機に、あらゆるシーンでワイヤレス技術が利用される時代が訪れつつあります。2020年代においては、5Gの利活用に留まらず更に高い周波数や新しい無線の利活用技術の開発が進むことで様々な新サービスの登場が期待されます。</p> <p>本シンポジウムでは、新たな電波の利活用により周波数利用の可能性を拡げる次世代ワイヤレス技術に焦点を当て、技術や標準化動向、アプリケーション、政策等について、産学官の専門家に講演頂きました。</p> <p>当日は、国立研究開発法人情報通信研究機構の門脇直人理事が開会の挨拶を行い、総務省総合通信基盤局の田原康生電波部長から来賓挨拶をいただきました。総務省総合通信基盤局の布施田英生電波政策課長から「最近の電波政策の動向について」の演題で基調講演をいただいた後、国立研究開発法人情報通信研究機構の寶迫巖未来ICT研究所長から「未開領域への挑戦:テラヘルツ波応用技術」、IHSマークイットジャパン合同会社の大庭光恵シニアアナリストから「ミリ波通信機器の現状とポテンシャル:特別なものから幅広いインフラへと変わりつつあるミリ波通信」、京都大学の篠原真毅教授から「マイクロ波空間伝送でワイヤレス電力伝送は新たなフェーズへ」、国立研究開発法人情報通信研究機構の豊嶋守生宇宙通信研究室長から「衛星コンステレーションや衛星5G技術の動向と次世代衛星通信技術」の演題で有意義なご講演をいただきました。</p>			

ーロードバイス・・・セル内で改行する時はAltを押しながらEnterを押してください。

